

第30回基本政策部会 議事要旨

1 日 時

令和5年2月2日（木）15:00～16:30

2 場 所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3 出席者

(1) 委 員

白坂部会長、常田部会長代理、青木委員、石田委員、臼田委員、片岡委員、栗原委員、櫻井委員、篠原委員、松井委員、南委員、山崎委員

(2) オブザーバ

宇宙航空研究開発機構（JAXA） 石井理事

(3) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 河西事務局長、滝澤参事官

4 議事要旨（○：意見等）

事務局から資料1及び参考資料1に基づいて説明。委員から以下の意見があった。

<次期宇宙基本計画の策定に向けた論点について>

- 量子暗号通信技術は日本の大きな強みとなっており、長距離の量子暗号通信実証のための衛星開発を行う必要がある。
- 技術開発と同時に、その技術が世界の標準になるようルールメイキングなどの働きかけもあわせて行うことが大切。
- 準天頂衛星システムは、機能・信頼性の向上や抗たん性の強化等を通じて、国のインフラとして測位サービスの安定性・継続性をより高めることが重要。
- 国際連携等の施策を行うにあたり、「人」への継続的な投資を行うべき。
- 海外展開を進めるにあたっては、我が国の強みとして、我が国が先端的な技術を有することが必要。No1やOnly1になる技術・起業を有することが重要。
また、教育など他の分野とセットで海外展開を行うなどの工夫が必要。
- 宇宙の技術は社会に実装していくフェーズ、これまで様々な実証のプログラムが行われていたが、なぜ実装が上手くいかなかったか検証を行うことが必要。
小さい事例でもいいので社会実装を進めていくことが必要。また、実装にあたっては利用側のニーズも踏まえてスペックを固めていくことが必要。
- 衛星データの利活用を進めるにあたり、省庁であればネックになる部署や政策について、産業界であればある業界においてどこまで理解されているか、誰がキーパーソンであるか等をしっかり把握して、適切に説明を行うことが重要。
- 宇宙と異業種の連携が重要であるが、宇宙業界から異業種の企業に歩み寄っていき、継続的な対話の場を設けることが必要。